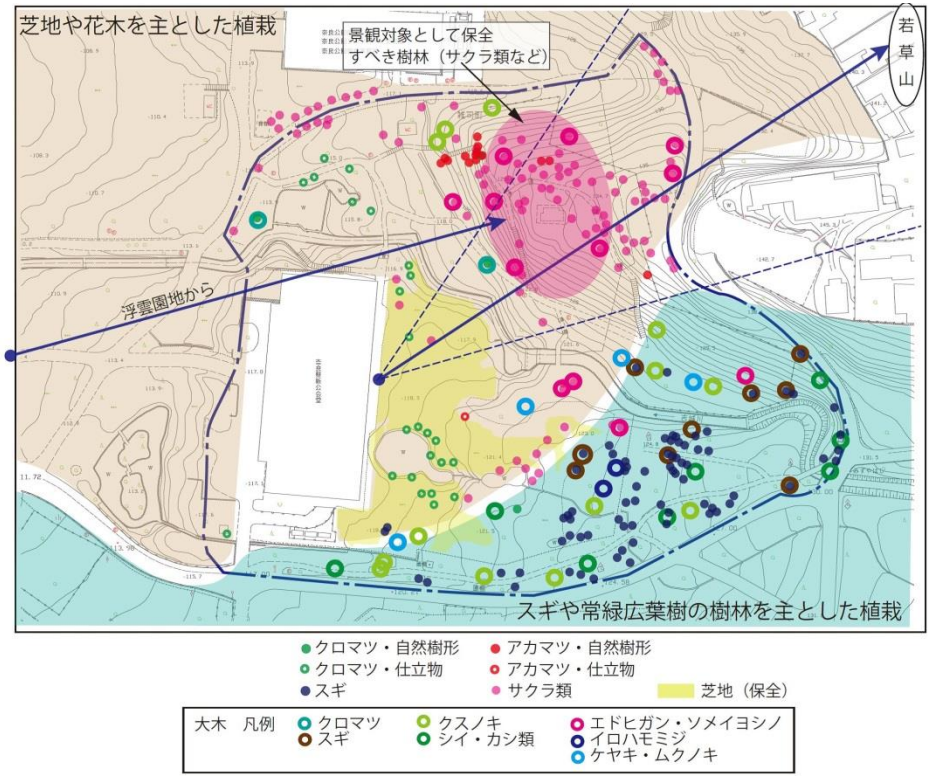
Ⅰ－4　計画課題の整理

（1）計画課題の整理

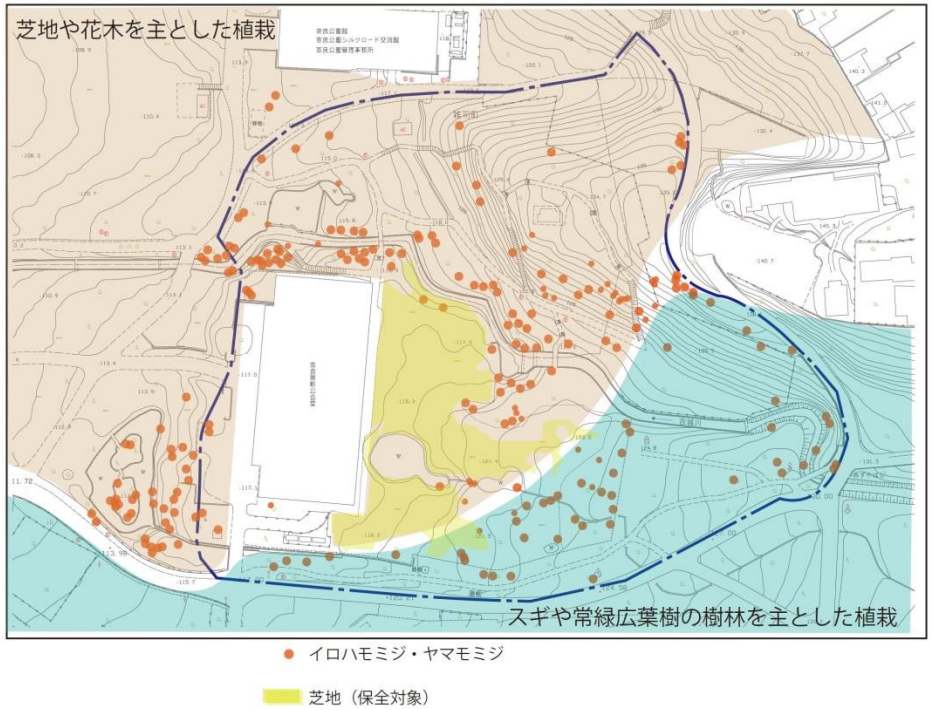
1）保全・再生すべき要素

①マツ類、スギ、サクラ類、カエデ類の植栽群の保全
②重要樹木及び大径木の保全
③「甍」本館前に広がる芝地と瓢箪池の保全 ※
④「甍」本館から若草山への眺望景観の再生 ※
⑤浮雲園地からの景観対象として樹林（サクラ類など）の保全
※明治期から残る庭園や景観の要素を示す

保全･再生の留意点
- マツ類、スギ、サクラ類は分布傾向が明瞭なので、その傾向を活かした保全・再生が望ましい。
- 重要樹木及び大径木のうち眺望景観の支障となるものは、総合的に検討する必要である。
- 尾根上のサクラ類は生長が進み過密になりつつあることに配慮が必要である。



図：保全・再生すべき要素－1



図：保全・再生すべき要素－2

Ⅰ－4　計画課題の整理

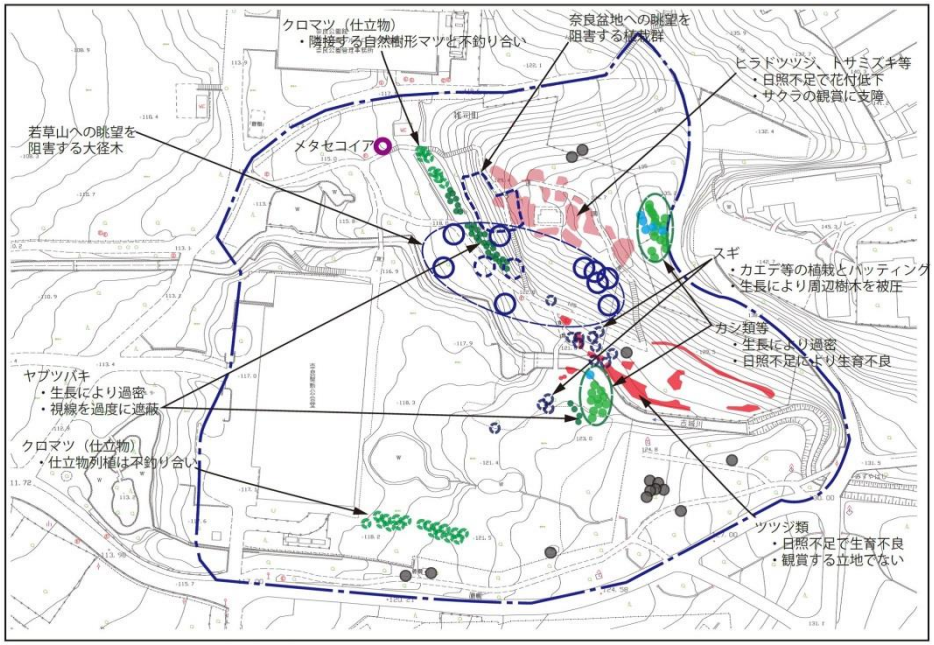
2）改善すべき要素

①過密樹木や生育不良樹木等の改善
- 尾根上のヒラドツツジ、　　・吉城川上流部のツツジ類
- 外周東端、吉城川南のカシ類等・ヤブツバキ群植地（２箇所）
- 太鼓橋周辺のスギ（２箇所）

②奈良公園に相応しくない外来樹木の改善
- ナンキンハゼ　・メタセコイア

③眺望を遮る植栽の改善
- 若草山への眺望を阻害する大径木（クスノキ、ケヤキなど）
- 奈良盆地への眺望を阻害する植栽群

④違和感のある植栽管理・配植
- 尾根麓、芝地南端のクロマツ（仕立物）の列植



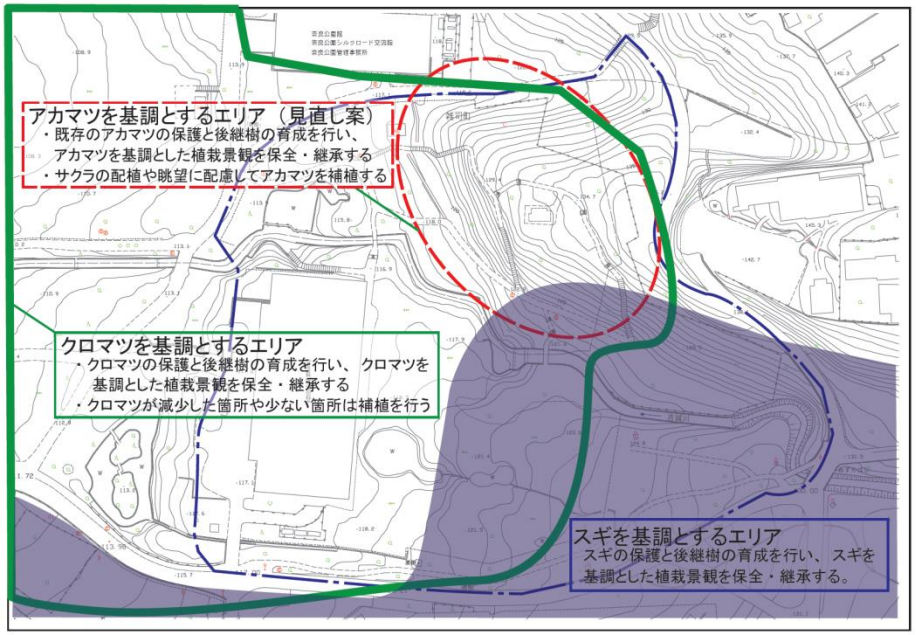
図：改善すべき要素

3）配植方針（見直し）に関わる要素

現況植栽の分布は、「公園全体の植栽方針」（平成２６年度）で設定した配植（案）にほぼ整合しており、本計画においては基本的にこの配植（案）に基づく配植が望ましい。

しかし尾根部については、かつてはアカマツ林であったことや現況においてもアカマツが複数見られること、更には尾根部が自然的な植栽が特徴となっていることに配慮すると、基調とする針葉樹はアカマツが適切ではないかと考えられる。

よって、配植方針は下図のとおり見直しすることを検討する



図：配植方針（見直し）に関わる要素

4）草花類植栽の導入

前項の「草花類植栽の検討」を参考に、本庭園の特性を十分に考慮して魅力の向上のために導入検討することが望まれる。

Ⅰ－4　計画課題の整理

(2)魅力資源

委員意見⑤に対応

1)魅力資源の抽出

これまでの分析・評価結果から、庭園内の主要な魅力資源を抽出する。

魅力資源として抽出した他にツツジ類、アジサイ、ヒュウガミズキなどの低木やサザンカ、ヤブツバキ、ハクモクレンなどの高木など花の咲く樹木もあるが、魅力ある景色なるまでには至っておらず、場合によっては混み合って庭園の拡がりや奥行きを損なうこともあることから、魅力資源から除外した。

①庭園中心部の景
②若草山への眺望
③奈良盆地への眺望
④太鼓橋から本館への眺め
※特別応接室からの眺め

メインアプローチ
主動線
動線（車椅子対応）
動線（車椅子非対応）
行き止まり
庭園入口

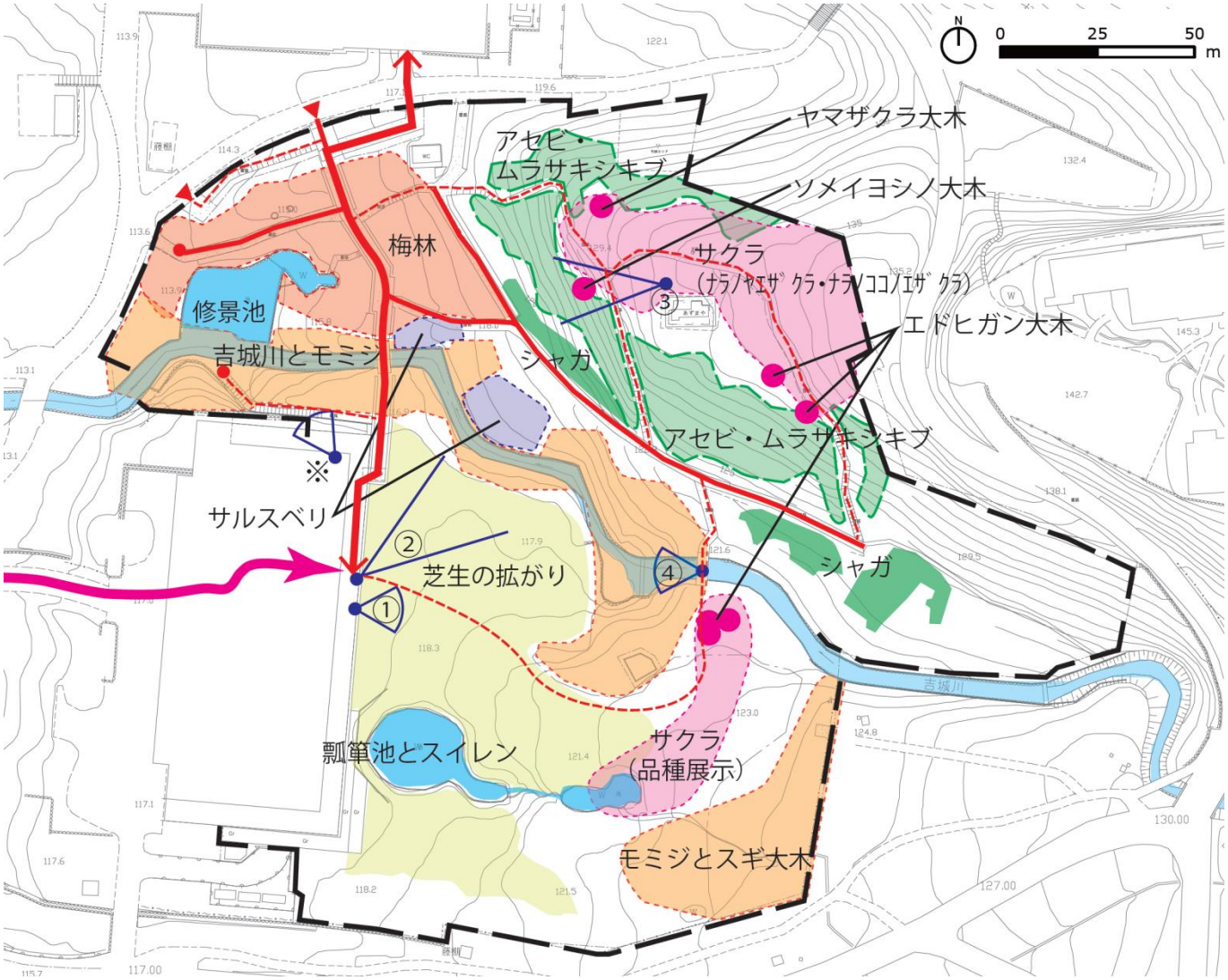


図:魅力資源の抽出

Ⅰ－4　計画課題の整理

2）各空間の動線と魅力資源

●景色による空間区分

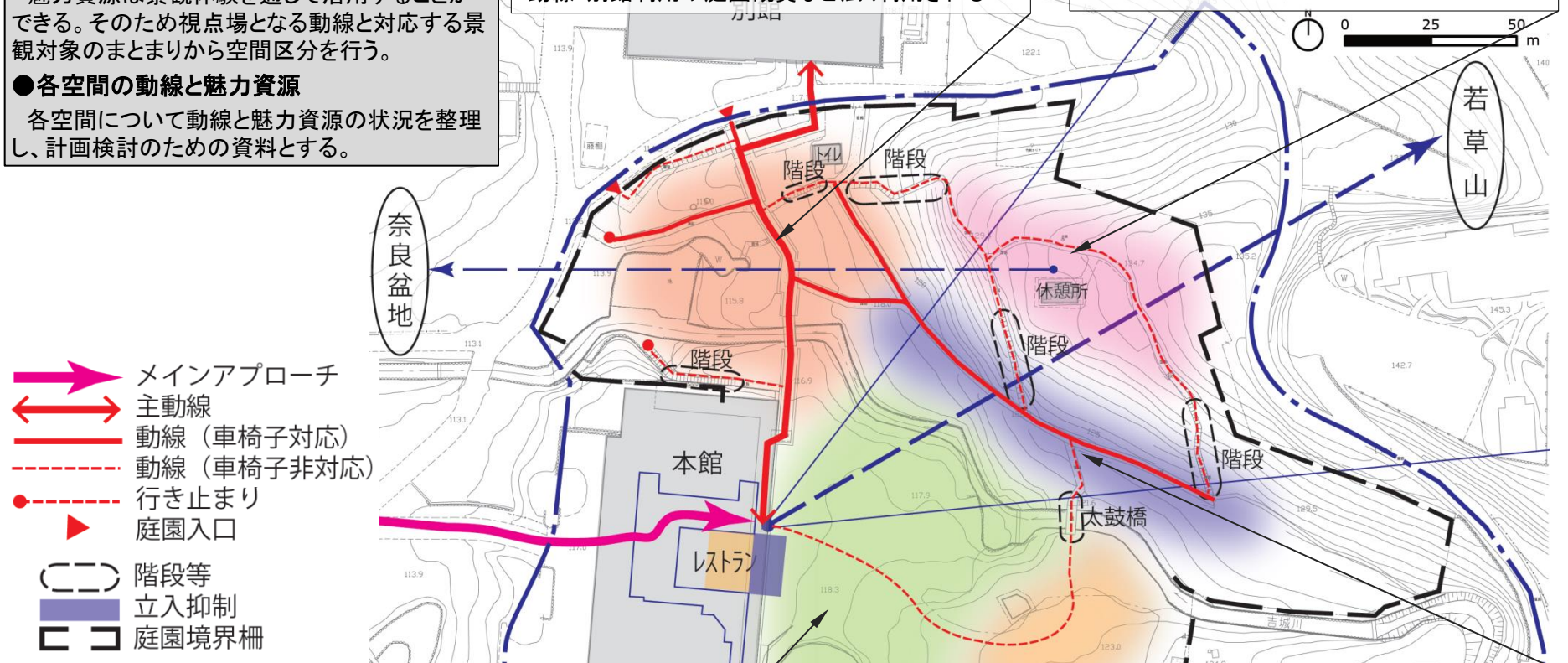
魅力資源は景観体験を通じて活用することができる。そのため視点場となる動線と対応する景観対象のまとまりから空間区分を行う。

●各空間の動線と魅力資源

各空間について動線と魅力資源の状況を整理し、計画検討のための資料とする。

②連絡通路から眺める景色　⇒花木林の景色
資源：梅林、サルスベリ、吉城川とモミジ、修景池
動線：別館利用や庭園観賞など広く利用される

⑤尾根上から眺める景色　⇒サクラの景色
資源：サクラ林、アセビ等、奈良盆地への眺望
動線：階段があるため利用が限定される



①本館前から眺める景色　⇒庭園のメインビュー
資源：若草山への眺望、全景、芝地、（山焼き、瑠璃絵、燈花会）
動線：ほぼ全ての利用者が訪れる

③尾根裾の景色
資源：シャガ等（資源少ない）
動線：平坦で歩きやすい、車椅子可

⑥池南の芝地の景色
資源：特に資源は無い
動線：ない（動線利用はレストランや会館と運営調整が必要）

④奥まった芝地の景色
資源：サクラ林（品種展示）、モミジ
動線：芝地又は土、利用少ない

図：各空間の動線と魅力資源

Ⅰ－4　計画課題の整理

(3)計画検討の方向性

修正項目:委員意見⑧に対応

これまでの分析結果をとりまとめて、計画検討の方向性として以下に述べる。

○計画地の位置づけ

現在の計画地は、国際コンベンション施設の庭園であるとともに、奈良公園の一施設として四季折々の景色や様々なイベントを通じて一般来園者が楽しむ庭園でもある。計画検討にあたっては、この二つの役割の調和に十分配慮する必要がある。

○明治期からの庭園要素の継承

計画地は、明治期に整備された公会堂の庭園や景観の一部を継承しつつ整備されたもので、現在も明治期から残る庭園要素や眺望景観が継承されている。特に瓢箪池とその周囲の芝地、若草山への眺望景観については、明治期のものがそのまま残されているものである。計画検討にあたっては、この歴史文化的価値を庭園として適切なかたちで継承する配慮が必要である。

○奈良公園の秀でた眺望景観

計画地の庭園越しの「若草山への眺望」は奈良公園の秀でた眺望景観の一つであり、また庭園の最大の魅力でもある。これを庭園の主景(メインビュー)として活かしていく必要がある。

○魅力資源を活かす回遊性

計画地は多彩な植物や眺望などの魅力資源が随所にある。これを庭園景観として活かすためには、それぞれの場所に応じた景観づくりを行いうとともに庭園の回遊性を高める必要がある。

○植栽とあわせて改善すべきもの

計画地は回遊できるが、実際に庭園を回遊する利用者は多くない。これは庭園の景観の魅力の問題もあるが、園路や階段など施設の快適性の問題も大きく関わっている。計画検討にあたっては、より多くの人が快適に利用できるように植栽とあわせて施設の改善も必要である。

参考:下表は、計画課題と対処によって得られる効用との関係性を整理したものである。 得られる効用は、庭園の観賞価値と歴史文化の保全が多い。

計画課題の要素 ＼ 得られる効用		庭園の観賞価値	歴史文化の保全	自然環境保全	奈良公園全体、周辺地との調和
保全・再生すべき要素	①マツ類、スギ、サクラ類、カエデ類の植栽群の保全	○	○		
	②重要樹木及び大径木の保全	○	○	○	○
	③「甍」本館前に広がる芝地と瓢箪池の保全	○	○		
	④「甍」本館から若草山への眺望景観の再生	○	○		
	⑤浮雲園地からの景観対象として樹林(サクラ類など)の保全				○
改善すべき要素	①過密樹木や生育不良樹木等の改善	○			
	②奈良公園に相応しくない外来樹木の改善			○	
	③眺望を遮る植栽の改善	○	○		
	④違和感のある植栽管理・配植	○			
草花類植栽の導入		○			
魅力資源	植生・植栽	○			
	空間の拡がり、水面、地形	○	○		
	眺望景観	○	○		

表:計画課題と対処によって得られる効用